

高崎市立短大の 同窓会が解散へ

残金を高経大に寄付



市川理事長(左)に寄付の目録を
贈る堤さんと竹入さん

2022.11.22. 上毛新聞 社会面

高崎経済大(高崎市)の前身に当たる同市立短大の同窓会が約40年の活動を終えて解散する。会員の高齢化などが主な理由。会員の堤宏さん(85)と同市中居町と竹入文子さん(87)と前橋市昭和町Ⅱが同大の市川豊行理事長を訪ね、会費の残金を同大に寄付した。

同短大は1952年に開校。旧兵舎を改築したキャンパスで、当時では珍しい昼夜の開講だった。教職課程もあり、2年間の在学中に中学などの教員免許を取得できた。56年に学生の新規募集を停止。5期生が卒業して廃校となった57年に同大が新設された。

短大の卒業生は教員や公務員として活躍した人が多く、同窓会は80年ごろに設立。同大の同窓会と共に大学の発展などに尽力してきたが、近年は病気などにより、活動できる会員が減っていた。会長が1月に亡くなったことを受け、年内の解散を決めたという。

堤さんは「昼でも夜でも空いた時間に講義を受けられて良かった」、竹入さんは「授業の合間に映画を見に行ったりした」などとそれぞれ思い出を語った。

寄付金は同大の三扇基金に繰り入れ、学生の支援などに充てる。

(平山舜)